

スポーツ観光マイスター任命状況

平成24年3月24日現在



設置趣旨

世界的・全国的に活躍するスポーツ選手（元選手）を「スポーツ観光マイスター」として任命し、あらゆる機会を利用してスポーツを核とした国内旅行及び訪日旅行をPRしていただくことによりマイスターの世界的・全国的な知名度を活かした観光魅力を発信し、スポーツ観光推進の一層の機運醸成を図る。

任命方法等

- ・候補者については、自薦他薦を問わず幅広く受け付ける。
- ・選定委員（外部委員2名＋観光庁長官）により選定し、観光庁長官による任命とし、長官自ら任命状を交付する。
- ・名誉職とし、活動に係る謝金等は支払わない。

現在のマイスター

任命年月



寺田陽次郎（ル・マン）

ル・マン24現役最多出場記録を持ち、唯一の外国人理事を務める。モータースポーツの盛んな欧州での抜群の知名度を活かしての訪日観光PRを期待。兵庫県神戸市出身。

平成22年7月



フィリップ＝ニルシエ（サッカー）

元日本代表監督で現在、FC琉球総監督。サッカーの盛んな地域への知名度を活かして沖縄を中心とした日本の魅力PR及び国際大会誘致を期待。フランス共和国パリ市出身。

平成22年7月



小原工（トライアスロン）

アジア大会5回優勝や、シドニーオリンピックにも出場した実績をもつ。米子市観光協会に所属し、Dスポーツの観点からスポーツ観光を推進している。鳥取県米子市出身。

平成22年7月



朝日健太郎（ビーチバレー）

男子バレー日本代表として活躍し、ビーチバレーでは北京オリンピックに出場、日本ビーチバレー男子史上初の勝利を挙げる。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。熊本県出身。

平成22年8月



浦田聖子（ビーチバレー）

ビーチバレーでワールドツアー入賞、アジア大会に出場など日本女子のトップ選手として活躍。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。佐賀県出身。

平成22年8月



塚原光男（体操競技）

オリンピック3大会で5個の金メダルを獲得。跳馬で「ツカハラ跳び」、鉄棒では「月面宙返り」を開発。世界的な知名度を活かしての訪日観光PRを期待。東京都出身。

平成22年8月



篠宮龍三（フリーダイビング）

フリーダイビングの国内唯一のプロ選手として国際大会で活躍。アジア記録（世界4位）である115mの記録を。沖縄でのスクール活動や海洋保護等を訴えるプロジェクト活動も推進。埼玉県出身。

平成22年8月



萩原健司（スキー ノルディック）

元スキー競技者。元経産大臣政務官。ノルディック競技の中心選手として活躍し、92年・94年の冬季オリンピック2大会連続で金メダル受賞。現役時代の活躍から「キング・オブ・スキー」の異名を取る。群馬県草津町出身。

平成22年8月



小林可夢偉（F1）

現役F1ドライバー。9歳でカートを始め、全日本カートチャンピオン、GP2アジアシリーズチャンピオンを経て、2009年F1デビュー。ザウバーのドライバーとしてフル参戦。非力なマシンながら印象的な走りを展開中。兵庫県尼崎市出身。

平成22年9月

スポーツ観光マイスター任命状況

平成24年3月24日現在



平成22年10月

船木和喜 (スキー ジャンプ)
長野オリンピックラージヒル個人、団体で金メダル。ノーマルヒルで銀メダルを獲得。その飛型は「世界一美しい」と言われ、世界選手権でも金メダル2個、銀メダル3個を獲得。ワールドカップでは日本人最多の16勝。1999年にプロのジャンプ選手として世界と戦うため独立。北海道余市町出身。



平成22年10月

大林素子 (バレー)
元バレー全日本代表。日本バレーボール協会テクニカル委員。全日本の中心選手として活躍し、1995年にはセリエAと日本人初のプロ契約。1996年にアトランタ五輪に出場し、翌年に現役引退。日本人に馴染みの深いバレーを通じたスポーツ観光PRを期待。東京都小平市出身。



平成22年12月

ドラゴン=ストイコビッチ (サッカー)
世界的なサッカープレイヤーであり、日本でも活躍し、現在は名古屋グランパスの監督として初のJリーグ制覇に導いた。サッカーを通じて人々に夢を与えると共に、我が国の持つ魅力を世界にPRすることに期待。セルビア共和国ニシュ市出身。



平成23年8月

廣道 純 (車いすレーサー)
シドニー、アテネパラリンピックと800mで連続銅メダルを獲得。短距離レースからフルマラソンまで幅広い種目で活躍。健常者マラソンと車いすマラソンの融合できる大会を増やすべく活動中。大阪府堺市出身、大分県在住。



平成23年8月

福島 千里 (陸上競技)
2009アジア選手権 女子100mに続き、2010広州アジア競技大会 陸上女子100mの金メダリスト。女子100m 200mの日本記録保持者として世界へ日本の魅力の発信を期待。北海道幕別町出身。



平成23年11月

有森 裕子 (マラソン)
バルセロナ五輪では銀、アトランタ五輪では銅メダルを獲得。引退後も精力的に活動を継続し、2010年6月、国際オリンピック委員会 (IOC) 女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。五輪メダリストとして日本のマラソンをはじめ走ることに魅力を世界に発信することに期待。岡山県岡山市出身。



平成23年11月

鈴木 毅 (トレイルラン)
2005年に国内3大レース (日本山岳耐久レース、富士登山競走、北丹沢12時間山岳耐久レース) を同一年に全て制覇する「トリプルクラウン」を達成。2009年、世界最高峰の大会ウルトラトレイル・デュ・モンブラン (UTMB) で日本人過去最高位となる3位入賞。トレイルランの普及と魅力発信を期待。群馬県桐生市出身。



平成24年2月

駒澤 李佳 (フィールドホッケー)
女子ホッケー日本代表として、アテネ、北京オリンピックに出場。ロンドンオリンピック出場を目指す「さくらジャパン」のエースとしてホッケーの普及、世界へ日本の魅力の発信を期待。大阪府泉南市出身。



平成24年3月

李 大浩 (イ・デホ) (プロ野球)
韓国プロ野球にて二度の三冠王獲得、最優秀選手賞受賞など数多くの記録を保持。平成24年~日本のプロ野球オリックス・バファローズに移籍。韓国と日本のスポーツを通じた交流の架け橋になることを期待。大韓民国プサン市出身。